

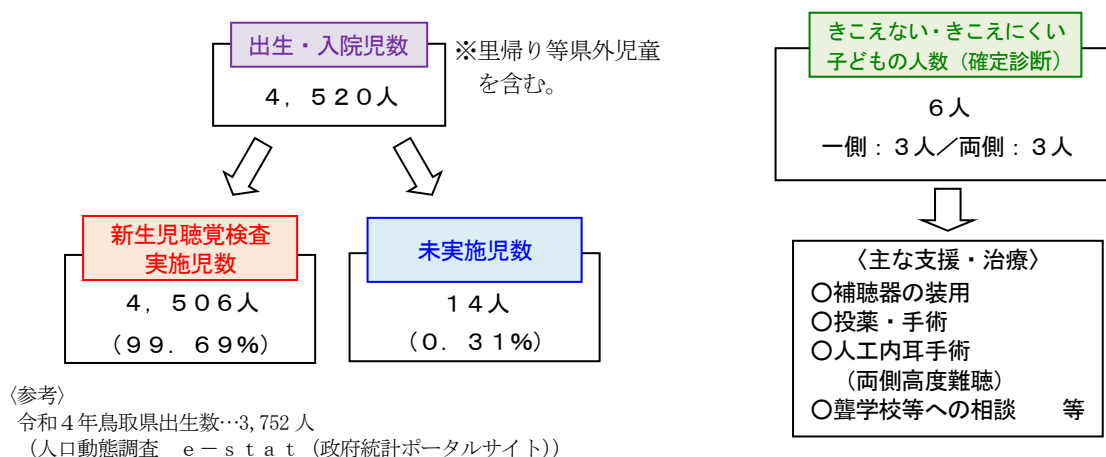
2022（令和4）年度新生児聴覚検査実施状況

2023（令和5）年12月

鳥取県きこえない・きこえにくい子どものサポートセンター『きき』

- ・新生児聴覚検査は、きこえない・きこえにくいことを早期発見し、早期に児童及び保護者に支援を行うことを目的としている。
- ・県内の分娩取扱産科医療機関14施設について、新生児聴覚検査実施状況の調査を行った。（全分娩取扱施設で実施。）
- ・令和4年度の県全体の新生児聴覚検査実施率は99.69%（前年度99.74%）で高い実施率を保持している。
- ・このことは、医療機関等の理解・協力のもと丁寧な説明により、保護者の理解が進んだことによると考えられ、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。
- ・県全体で確定診断を受けた、きこえない・きこえにくい子どもの人数は6人（一側難聴3人／両側難聴3人）であった。

【きこえない・きこえにくい子どもの早期発見と支援、治療の全体像】



1 新生児聴覚検査実施状況

- ・県全体の検査実施率は99.69%で、前年度と比べ0.05%減少した。
- ・NICU入院児の検査実施率は99.18%で、前年度と比べ0.3%減少した。
- ・NICU入院児を除いた検査実施率は99.79%で、前年度と比べ0.01%増加した。
- ・未実施の理由は、「保護者が希望しない」「検査前に死亡」「転院」であった。

2 精密検査実施状況

- ・精密検査実施件数は20件であった。
- ・NICU入院児のきこえない・きこえにくい子どもは、一側難聴が1人（軽度）と両側難聴が1人（軽度）であった。
- ・NICU入院児を除いた、きこえない・きこえにくい子どもは、一側難聴が2人（軽度2人）、両側難聴が2人（軽度1人、高度1人）であった。

3 市町村及び保健所訪問指導実施状況

- ・相談件数は8件（新生児訪問での相談：7件、その他の経路による相談1件）で、保健師による支援が実施された。

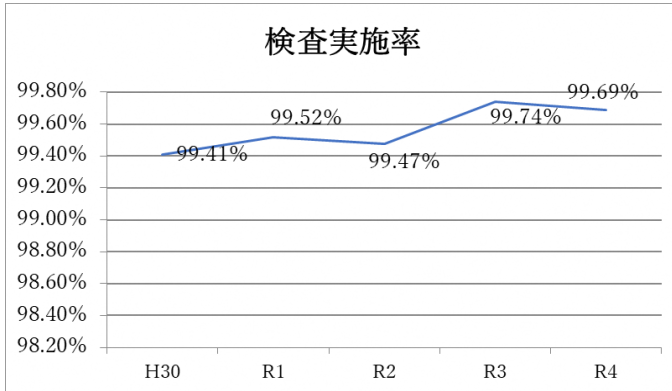
4 療育機関・教育機関での指導実施状況

- ・新生児聴覚検査を受けてリファーとなり、指導を開始したのは8人で、うち7人は県内精密検査実施機関から、うち1人は保健師からの紹介によるものであった。
- ・指導開始が生後6か月以内は2人、6か月超は6人であった。

資料

1 新生児聴覚検査実施状況

県全体の検査実施率は、99.69%(前年度99.74%)となった。



年度	検査実施状況		
	出生・入院児数 (A)	検査実施児数 (B)	実施率 (B/A×100)
R4年度	4,520	4,506	99.69%
R3年度	4,261	4,250	99.74%
R2年度	4,571	4,547	99.47%
R1年度	4,838	4,815	99.52%
H30年度	4,922	4,893	99.41%

(1) NICU 入院児の状況

①実施状況

- ・全体の検査実施率は、99.18%であり、前年度(99.48%)と比べ0.3%減少した。
- ・未実施の理由は「検査前に死亡」「転院」であった。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部99.71%(昨年度比0.29%減)、中部が99.22%(前年度比0.78%減)、西部は98.47%(前年度比0.23%減)となっている。

圏域	検査実施状況			検査結果		
	医療機関入院児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率
東部	341	340	99.71%	336	4	1.18%
中部	128	127	99.22%	125	2	1.57%
西部	261	257	98.47%	254	3	1.17%
合計	730	724	99.18%	715	9	1.24%

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

- ・検査実施率は99.79%であり、前年度(99.78%)と比べ0.01%増加した。
- ・未実施の理由は「保護者が希望しない」「転院」「IUID」であった。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部が100%(前年度同比)、中部は99.64%(前年度比0.21%減)、西部は99.67%(前年度比0.11%増)となっている。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査 (1ヶ月健診時)	
	医療機関出生児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率	パス	リファー
東部	1,433	1,433	100.00%	1,405	28	1.95%	20	3
中部	560	558	99.64%	556	2	0.36%	1	-
西部	1,797	1,791	99.67%	1,780	11	0.61%	4	2
合計	3,790	3,782	99.79%	3,741	41	1.08%	25	5

※入院中検査リファーのうち、11人は確認検査(1か月健診時)せず精密検査実施機関へ紹介。

2 精密検査実施状況

精密検査受診は20人で、確定診断を受けた、きこえない・きこえにくい子どもは6人であった。

(1) NICU 入院児の実施状況

①実施件数と結果

スクリーニング結果			精密検査結果			
県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	結果	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
3	0	一側リファー	1	1	1	0
		両側リファー	0	0	0	0
合計			1	1	1	0

※県内精密検査機関（NICU 入院児）：県立中央病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院の3機関

②きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児のきこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳は、以下のとおりである。また、県内の聾学校への紹介は0件であった。

程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
			県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
軽度難聴	1	1		
中等度難聴	0	0	0	0
高度難聴	0	0		
合計	1	1	0	0

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施件数と結果

スクリーニング結果				精密検査結果			
県内医療機関からの紹介	県外医療機関からの紹介	結果	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
15	2	一側リファー	9	1	1	7	0
		両側リファー	8	1	1	6	0
合計			17	2	2	13	0

※県内精密検査機関：県立中央病院、鳥取赤十字病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院の5機関

②きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児を除いた、きこえない・きこえにくい子どもの聴力の内訳は、以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は2人であった。

程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数		
			県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
軽度難聴	2	1			
中等度難聴	0	0	2	0	0
高度難聴	0	1			
合計	2	2	2	0	0

3 市町村及び保健所訪問指導実施状況

市町村及び保健所保健師が実施した訪問指導の内訳は、以下のとおりである。

新生児訪問の際に保護者から相談を受けた事例が7人、その他の経路による相談を受けた事例が1人であった。

区分	相談件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪問での相談	健診・予防接種等の場	その他の経路による相談	電話相談
		新生児スクリーニング実施医療機関から	聴覚精検実施医療機関から	保健所から	その他の機関から				
東部圏域市町村・保健所	4	0	0	0	0	4	0	0	0
中部圏域市町村	4	0	0	0	0	3	0	1	0
西部圏域市町村	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	0	0	0	0	7	0	1	0

4 療育機関・教育機関での指導実施状況

療育機関、聾学校での指導開始人数は8人であった。

県内精密検査機関からの紹介が7人、保健師からの紹介が1人だった。

区分	人数	紹介者			指導開始時期	
		精密検査機関	保健師	その他	6か月以内	6か月超
療育機関	2	1	1	0	0	2
聾学校	6	6	0	0	2	4
合計	8	7	1	0	2	6

5 参考

令和4年鳥取県出生数 3,752人

(人口動態調査 e-s t a t (政府統計ポータルサイト))